

News Letter

ニュースレター

2020.3 vol.115



特集◎ 中川運河再生 古くて新しい名古屋の水辺

まちづくり支援

令和元年度まちづくり活動助成 スタートアップ部門活動報告

まちづくり来ぶらり

市バス90周年

中川運河再生 古くて新しい名古屋の水辺



長良橋付近の船上から名古屋駅方面を望む。左の建物が「パーミキュラ ビレッジ」。ショップ、レストラン、ベーカリーカフェ。どの施設からも中川運河を見渡せ、水辺の気持ちよさを感じられる。



「中川運河沿岸用地事業提案募集」で出店した「珈琲元年」。



中川運河のシンボリックな景観として親しまれてきた岡谷銅機(株)の物流倉庫。保存の要望に応じて、昭和初期の原風景を残す形で建て替えられた。



旧国鉄笹島貨物駅跡地を先進的な都市空間に活用するため2000年から動き出した「ささしまライブ24」の再開発。2017年、グローバルゲートの全面開業で「まちびらき」し、大学、ホテル、商業施設が建ち並ぶ名古屋駅周辺の新しい顔となりました。そうした新しいビル群に隣接して中川運河堀止があります。ここは、かつて名古屋港からの船が荷を下ろした中川運河の船溜まり。水路と陸路の中継地点として物資が行き交った場所です。名古屋港と旧国鉄笹島駅を結んだ中川運河は、今は静かに水をたたえ、名古屋に残された貴重な水辺として注目を集めています。

「東洋一」と言われた大運河の今

1926年に着工、1932年に全線開通。「東洋一の大運河」と新聞が伝えた中川運河は、物流の要としてその後の名古屋の発展を支えました。沖合の大型船から鉱石や綿花を積んで運河を上り、陶磁器などの輸出品を港へ運ぶ。最盛期の昭和39年には75,000隻を超える船が往来しました。しかし、輸送形態が鉄道貨物からトラックへと変わると運河の水運利用は徐々に減少。今では一日数隻の小型タンカー船が行き交うのみとなっています。

こうした背景を受けて、中川運河に新たな価値と役割を見出そうと2012年、名古屋市と名古屋港管理組合は「中川運河再生計画」を策定しました。



最近、水がきれいな理由

名古屋港と閘門で仕切られた閉鎖性水域である中川運河は、中川口から取り入れた海水を松重ポンプ所から堀川へ放流するなどして水循環に努めてきました。2017年、露橋水処理センターが稼働し高度処理を開始。その高度処理水をささしまライブ24の堀止に送水することにより、運河の水循環が促進され、水質改善に大いに貢献しています。

露橋水処理センター・広見
憩いの杜を上空から見る。



中川運河再生 古くて新しい名古屋の水辺

再生計画では、おおむね20年先を見据えた運河再生構想と最初の10年の取組内容を盛り込み、「にぎわいゾーン」「モノづくり産業ゾーン」「レクリエーションゾーン」と運河を3つのゾーンに分けて再生イメージが示されています。

進展する中川運河再生計画

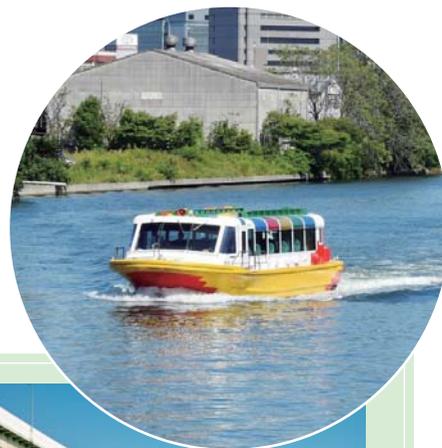
再生計画で「にぎわいゾーン」とされたのは、チャンネルパークささしま・堀止緑地から長良橋にかけての都心エリア。このゾーンは令和に入って、新聞紙上をにぎわせる話題の発信地です。緑地やプロムナードの整備、沿岸用地への商業施設の誘致、水上交通の運航など、にぎわいづくりのために盛り込まれた計画が一つずつ形になってきたからです。

その一つ「中川運河沿岸用地事業

提案募集」では、民間のアイデアやノウハウを活用して運河沿いのにぎわいを生み出そうと、用地に事業提案者を公募し、意欲ある事業者を中川運河に引き寄せてきました。にぎわいゾーンでその先駆けとなったのは「珈琲元年」（富士コーヒー（株））。運河の景色が楽しめるテラス席はいつも人気です。2019年には、今、注目の鋳物ホーロー鍋を製造する愛知ドビー（株）が体験型複合施設「バーミキュラ ビレッジ」をオープンさせました。

「実は、ずっと以前から、馴染みのある中川運河のほとりでバーミキュラの魅力を発信できる施設がくれたらいいなと思っていました」と話すのは愛知ドビー（株）代表土方邦裕さん。「偶然目にした事業提案募集にすぐさまエントリーしました。子どもの頃から

見てきた中川運河が衰退していく時期は、愛知ドビーにとっても苦しかった時期。だから発展・衰退・再生の歴史を辿った中川運河に再び活気を取り戻そうという中川運河再生計画にはすごく賛同します」と土方さん。「連日施設を訪れる人たちに、ぜひ中川運河の景色を楽しんでほしい」と言います。「バーミキュラ ビレッジから見る中川運河は本当にきれい。朝も、昼も、夜も、見ていて飽きません。川幅の広さや水辺の近さも魅力ですが、水面にごみがない。もっと中川運河に注目が集まって、この地域の魅力をバーミキュラの世界観とともに発信していきたいです」。



水上交通に注目！

中川運河のにぎわいづくりに期待されるのが、水上交通「クルーズ名古屋」。ささしまライブからチャンネルリゾート、みなとアクルス、ガーデンふ頭、金城ふ頭まで定期便が運航中。中川運河から見る名駅の高層ビル群、運河沿いの店で手を振る人たち、近づいてくる名古屋港の観覧車・いつもとは違う名古屋を感じる船旅が楽しめます。

● 中川口通船門

中川運河は水位が一定で、名古屋港と水位差があるため、そのままでは船は名古屋港と行き来できません。そこで造られたのが通船門。閘門で仕切られた閘室内の水位を上下することで船の運航を可能にします。これはパナマ運河と同じ仕組みで、日本の運河で現存する数少ない施設。「クルーズ名古屋」でぜひ体験してください。



クルーズ名古屋の発着地・ささしまライブ24の堀止緑地



中川口通船門の閘室。ここで水位を調節して船を航行させる。



中川運河まつり

人々を引き付ける中川運河

中川運河再生に寄せる思いは、地元学区の住民や企業にも広がっています。岡谷銅機(株)は、1934年から使用してきた中川運河沿いの倉庫の建替えにあたり、竣工当時の昭和の外観を再現、夜はライトアップして運河の景観を盛り立てています。中川区に本社を置くリンナイ(株)は、中川運河で行われているアート助成事業「ARTtoC10」(名古屋都市センターが運営)に寄附をしています。

2019年11月、「令和の時代に一夜限りの復活」と銘打って、およそ半世紀ぶりに開催された「中川運河まつり」では、広見学区区政協力委員長鏡味栄男さんはじめ、多くの地域住民が奔走しました。「にぎわいゾーン」の事業者だ

けでなく大企業、地元の中小の企業、本当に多くの中川運河に対する熱意を感じた」と鏡味さん。まつりの会場となったのは、露橋水処理センター「広見憩いの杜」。全面改築において水処理施設を地下化することで地上に生まれた芝生のオープンスペースです。当日は間近で見る花火の迫力に多数集まった地域の方々から大歓声が上がりました。「水辺はやっぱり気持ちがいいですね。広見憩いの杜の桜も10年もすれば立派になるでしょう。そのときはもっと多くの方が、名古屋駅からプロムナードを散策して中川運河を訪れてくれることを願っています」。

中川運河再生計画策定から約8年。その魅力と新しい価値に気づき始めた人々によって、新しい中川運河の物語が始まろうとしています。

世界運河会議 NAGOYA 2020

世界の英知を集め、中川運河など NAGOYAの水辺に新たな感動空間を創出する

世界の水辺先進事例から 名古屋・中川運河を考える3日間

世界運河会議 NAGOYA2020 は国内外から多彩なゲストを招きます。基調講演はニューヨークの都市計画プランナー、オープニングディスカッションでは水の都ヴェネチアの研究で有名な陣内秀信先生を交えて水辺を議論します。

柱となるのは3つのセッション。**セッション1は「水辺から始まる都市戦略」**。水辺の魅力をまちの資源としてプロモーションする先進事例を学び、名古屋の都市戦略に中川運河を活かす道を探ります。**セッション2は「アート&クリエイティビティそしてイノベーションへ」**。人々の目を水辺に向けるためのアートの役割について。**セッション3は「市民・企業が支える水辺マネジメント」**。水辺に快適さ、楽しさを

中川運河再生の機運が高まるなか、「世界運河会議NAGOYA2020」が開催されます。企画委員長としてかかわる秀島栄三先生(名古屋工業大学大学院工学研究科教授)にお話をうかがいました。



求めるとき必ずぶつかる法律や規制。にぎやかで人の集まる水辺に作り替えるために誰がマネジメントするのか、その方法を考えます。そして「ダイバーシティセッション」では広く市民に参加してもらい、名古屋の水辺、中川運河への関心を高めていきます。各セッションでの議論を踏まえ「NAGOYA Model」を提唱します。

名古屋は第二次産業で日本をリードしてきたまちです。しかし今、産業のない都市はもっと先のことを考えています。それは知恵や知識を持った人材に「住んでみたい」と思わせるまちづくりです。そう思わせる要素として水辺の魅力はとても大きい。名古屋はそれに気づかず、住みたくなるまちへの努力が足りていないと感じます。こ

のままでは都市間競争に負けてしまう。世界運河会議 NAGOYA2020 は、名古屋にもある水辺の存在に気づき、これからの名古屋を考える起爆剤になればと考えています。

最後に、世界運河会議NAGOYA2020は2010年から活動を続ける(一社)中川運河チャンネルアートが核となって企画されました。震災復興以来「公」がしっかり基盤を作ってきた名古屋にとって、「民」で国際会議に取り組むのは新しい動きです。これは名古屋をもっと面白くする一つの方向性だと思っています。(談)



▼詳細情報は
公式サイトを
ご覧ください

<https://icf-nagoya.jp/>

主催：世界運河会議 NAGOYA2020 実行委員会

共催：名古屋市、名古屋港管理組合、(公財)名古屋まちづくり公社名古屋都市センター、(一社)日本プロジェクト産業協議会、(一社)中川運河チャンネルアート

【まちづくり支援】

令和元年度まちづくり活動助成 スタートアップ部門活動報告

人とのつながりが希薄になる現代、さまざまな形で地域のコミュニティに関わる活動団体を紹介します。



桃山学区防災ミーティング

地域をつなぐ「連携の輪」

みんなで助け合う防災の仕組みをつくりたい

桃山学区防災ミーティングは、学区内の町内会及び関係団体（全23団体）で構成しています。活動の目的は、地域が連携して防災の仕組みを作り、町内会ごとの状況に応じた防災計画の作成や、地域の助け合いの仕組みを作ることです。



事務局の橋口さん（写真右）と柴田さんが活動を始めたきっかけは、防災に関心が高い二人で学区の防災活動を見直してみないかと、学区から提案を受けたこと。町内会の役員をして

いた際の経験も生かしながら、この活動を進めています。

今年度の防災訓練では、全世帯参加で安否確認を行い、助け合いの仕組みをつくることの意義を感じる内容を実施。防災計画の方針づくりでは、地域ごとの心配事や事情を把握するために各町内会と個別に話し合いを行うなど、地域の実態に即した取組みをすすめています。

この活動で最も大切にしているのは、「町内会の『自主性』を大切にしながら進めること」。各町内会と顔を突き合わせて話し合いをすることで理解や共感を得られるように努めています。防災ミーティングの活動を通じて地域の絆が深まり、連携と助け合いによる防災の仕組みづくりが進められることを期待しています。



梅が丘三世代を繋ぐ会

地域みんなが集まる「楽しい居場所」

三世代交流で、子どもたちを見守りたい

活動の目的は、多世代が混在する地域で三世代の交流を図ることです。共働きの親の世帯の子どもたちを地域で育て合うことや、学校から帰って一人過ごす子どもたちの居場所として、隣り合う近所に住む多世代の交流ができる場を作りたいという思いで、この団体を立ち上げました。

代表者である本田さんが団体を立ち上げたきっかけは、4人の子育てで大変だったときに沢山のご近所の方が支えてくれたこと。それがこの活動の原動力となっています。他のメンバーも、近所の子どもたちが不登校の問題を抱えていた経験から、地域の中で家庭と学校の他に安心して過ごせる居場所の必要性を感じていました。



地域に対するメンバーの熱い思いから「うめがおかSUNプロジェクト」が生まれました。毎月、ご近所みんなで集まってお菓子を食ったり、ゲームをする「魔女の駄菓子屋さん」や、ご年配の方から子どもたちが縫物を教えてもらう「つむぎ倶楽部」などのイベントを開催しています。

これまでそれぞれに活動していた町内会・老人会・子ども会が一緒になって、地域の宝物である子どもたちを育てながら、活動の輪を広げています。

覚王山コミュニティ・アーカイブ



商店街の人々の営みを、覚王山祭りを中心にビジュアル（写真・映像）アーカイブ（記録）として学生たちと撮影。商店街の方々に向けて報告会を開催。

大幸東団地ふれあいひろば



団地内の住民が気軽に交流できるように、月に2回「だべりing」の会を開催。普段から住民同士のコミュニケーションや顔の見える関係づくりを図る。

ひょうたん寺子屋実行委員会



夏・冬休みに宿題・勉強を行う小中学生向けの寺子屋を開催。地域の有志と学生ボランティアが、子どもたちに寄り添って学習支援を行っている。

大門まちづくり友の会



歴史ある大門（おおもん）の魅力を発信するために、フォトコンテストや魅力のまち歩きイベントを開催。まち歩きマップを作成し、イベント等で活用。

桃山学区健康危機管理サポーター実行委員会



災害時の避難所での健康・衛生管理や感染症対策、救急活動等の備えを行うとともに、日常から広報や啓発活動に取組み、地域の安全度向上を目指す。

ナゴヤSUP推進協議会



水辺の利用促進を目的として、SUP（Stand-Up Paddleboard）を使い、天白川で水質調査や、水辺へのアクセス、余暇活動の可能性を探る活動を実施。

●●●（スリードット）



地域活動の取組みや中間支援に関する勉強会を開催。意見交換や対話による学びを、継続的なまちづくり活動の実践に結びつけることをめざす。



令和2年度
まちづくり活動助成
スタートアップ部門は
4月募集開始予定

まちづくり来ぶらり

第82号

まちづくりライブラリー
 全国に誇るまちづくりの専門図書館です。名古屋市の戦災復興に関する資料や都市計画関連図をはじめ、都市計画概要などの行政資料や研究機関の調査研究報告書なども収集しています。



市バス90周年

市バスの運行が始まったのは1930(昭和5)年です。名古屋市におけるバス事業は、1908(明治41)年に泥江橋-本町間に初めて運行されましたが、利用客が少なく2か月余りで廃業になりました。その後1923(大正12)年まで市内のバスの本格運用は行われませんでした。

1923(大正12)年、名古屋市街自動車合資会社(のちの名古屋乗合自動車株式会社)により名古屋駅前-千種駅前間、天津町-伝馬町間で運行されるようになり、その後多くの民営バスの運行が始まりました。一方、名古屋市は市電との競争関係を考慮しバス事業を計画します。1929(昭和4)年12月に営業許可があり、1930(昭和5)年2月には名古屋駅-大曾根間、浄心-覚王山間など4路線で市バスの運行が始まりました。

1930(昭和5)年にはバス事業を行う会社は22にのぼり、民営バス・市バス・市電間で激しい乗客争奪戦が展開されたため、市は1935(昭和10)年から民営会社の買収を始め、1940(昭和15)年2月に第4次で完了しました。これにより運行システムの整理ができサービス面も向上しました。



現在市バスは163系統、営業キロ766.8km、1,459停留所、在籍車両1,018両で運行され、市内におけるバス輸送の9割を市バスが担っています。営業キロ、車両数は公営では全国で2番目です(2019(平成31)年4月時点)。

乗車人員は2005(平成17)年度まで地下鉄の整備・少子高齢化・自家用車の利用などの影響で減少傾向が続き1日の乗車人員は約30万人まで減少しました。2006(平成18)年度以降新たな乗客サービスの提供等により増加傾向に転じています。

◆参考文献◆

さらに詳しく知りたい方は、こちら

- 『新修名古屋市史 第6巻』
新修名古屋市史編集委員会/編(Sc-f)
- 『名古屋開府400年記念誌 尾張名古屋大百科』
名古屋開府400年記念事業実行委員会/編(Se-f)
- 『市営五十年史』
名古屋市交通局50年史編集委員会/編(2B70-72)
- 『市営交通70年のあゆみ』
名古屋市交通局/編(2B70-92)
- 『市バス 地下鉄』
名古屋市交通局営業本部総務部広報広聴課/編(2B70-2017)
- 『交通局事業概要 令和元年度』
名古屋市交通局営業本部総務部広報広聴課/編
名古屋市交通HP
<https://www.kotsu.city.nagoya.jp/jp/pc/ABOUT/TRP0003746.htm>(参照2020-1-18)

図書紹介

『ヤコブセンの家 桜日記』

著者：岡村恭子
 出版社：フチグラパブリッシング
 請求記号：Tb-オ

北欧を拠点に活躍する家具デザイナーの夫と共にコペンハーゲンで暮らす著者が綴るほっこり北欧ライフ。何気ない生活から北欧が感じられます。デンマークを代表する建築家アルネ・ヤコブセンの住宅で暮らす著者の生き生きとした暮らしは、時間に追われた日本人に大切なものを思い出させてくれます。



『地図帳の深読み』

著者：今尾恵介
 出版社：帝国書院
 請求記号：Na-イ

学生時代の教科書は、処分されてしまう物が多いですが、地図帳は残している方も多いのではないのでしょうか。地図には文字以上にたくさんの情報がつまっています。地図研究者である著者が、じっくりと眺めて読みこんだ情報を伝えます。この書をきっかけに地図に親しめば、新たな楽しみ方が見つかります。



『図説 台湾都市物語 台北・台中・台南・高雄』

著者：王惠君・二村悟
 出版社：河出書房新社
 請求記号：Id-オ

最近、雑誌の旅行特集で、よく取り上げられる台湾ですが、近代の一時期、日本が統治していた歴史があります。本書で紹介される台湾の歴史建造物は、日本の統治時代に建てられたものが中心となります。今も残る建築物は、台湾の歴史を物語ってくれます。旅行の前に、その物語に耳を傾けてみてはいかがでしょうか？



名古屋都市センター 賛助会員の募集について

名古屋都市センターの設立趣旨に賛同し、センターの活動を支援して下さる
令和2年度の賛助会員を募集しています。当センターの活動にご理解・ご支援
いただける企業・団体・学校・個人の皆様のご入会をお待ちしています。

《賛助会員の種類》

- 法人会員(年会費 1口50,000円)
- 学校法人(年会費 1口50,000円)
- 個人会員(年会費 1口5,000円)

(期間: 令和2年4月1日から翌年3月31日まで)

《会員特典》

● 情報提供

機関誌「アーバン・アドバンス」、広報紙「ニュースレター」の送付
都市センター主催、企画のセミナー等の優先案内等
施設見学会



● まちづくりライブラリーの利用を優待

ライブラリーカード登録料: **300円 → 無料**
貸出図書: **3冊 → 5冊**



● 貸会議室・ホールの利用を優待 ※法人会員のみ

貸会議室(14階)、ホール(11階) **利用料金を10%割引**



● 都市センター出版物の割引販売

一例)ナゴヤ減災まちづくりビジョン: **1,000円 → 800円**

● 税制上の優遇措置

公益財団法人への寄附金として所得税等の税制上の優遇措置を受けられます

《詳細・申込》 [名古屋都市センターHPをご覧ください。](http://www.nup.or.jp/nui/member/index.html)
<http://www.nup.or.jp/nui/member/index.html>

《令和元年度 法人賛助会員のご紹介》 (50音順、敬称略)

- | | | |
|---------------------|------------------|------------------|
| 学校法人 愛知学院 | 清水建設株式会社 名古屋支店 | 名古屋高速道路公社 |
| 公益社団法人愛知県建築士事務所協会 | 株式会社創建 | 株式会社日建設計 名古屋 |
| 学校法人 愛知産業大学 | 株式会社竹中工務店 名古屋支店 | フジパングループ本社株式会社 |
| 株式会社アール・アイ・エー 名古屋支店 | 玉野総合コンサルタント株式会社 | 株式会社ホテルグランコート名古屋 |
| 株式会社伊藤建築設計事務所 | 一般社団法人地域問題研究所 | 三菱地所株式会社 名古屋支店 |
| 株式会社大林組 名古屋支店 | 学校法人 中部大学 | 株式会社 三菱UFJ銀行 |
| 岡谷鋼機株式会社 | 東邦ガス株式会社 | 学校法人 名城大学 |
| 公文にしもの台1丁目・金山駅前教室 | 中日本建設コンサルタント株式会社 | 名鉄ビルディング管理株式会社 |
| 栄公園振興株式会社 | 学校法人 名古屋学院大学 | 株式会社URリンケージ 中部支社 |
| 株式会社 桜屋 | 一般社団法人 名古屋建設業協会 | |
| 株式会社サンスタッフ | 名古屋港管理組合 | |

昔

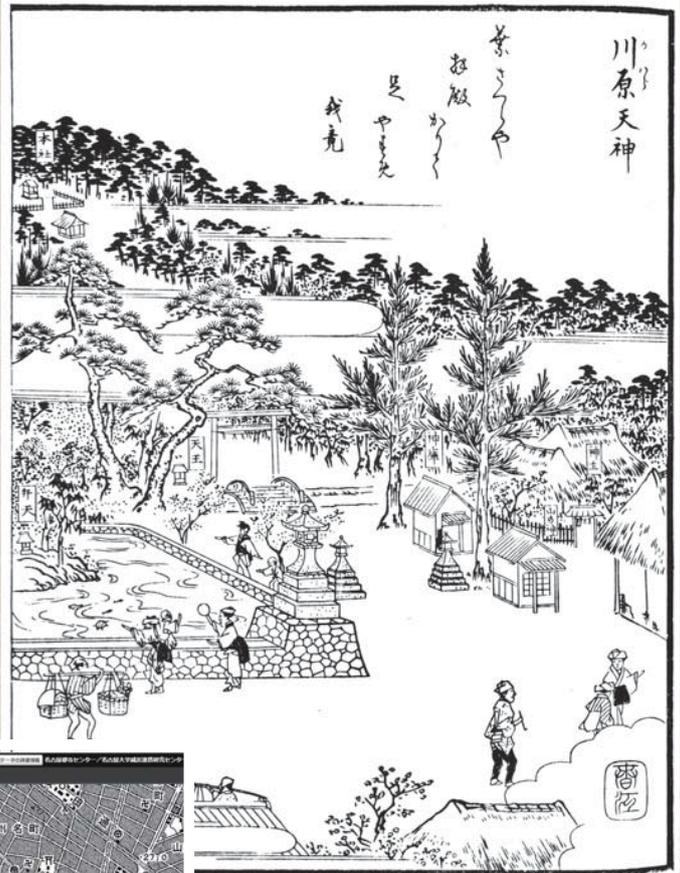
かはら
川原天神

昔の面影を残す
川名の弁天さま

昭和区川名本町(しょうわくかわなほんまち)にある川原(かわはら)神社。創建された時代ははっきり分かっていませんが、平安時代初期の年中行事や制度などを記した「延喜式(えんぎしき)」に「愛智郡川原神社」として名前が記載されているため、その時代には存在していた格式の高い神社とされています。しかし絵には、池で泳ぐ魚や亀を指さす子どもと女性、天秤棒(てんびんぼう)を担いで歩く振売(ふりうり)など、人々の日常に溶け込んだ格式張らない情景が描かれています。

川原神社は名古屋と信州をつなぐ「飯田街道(いいたかいどう)」の沿線に位置し、絵の手前の往来(おうらい)は街道と考えられます。右方向、つまり東に進むと天白区(てんぱく)の八事(やごと)に着きます。明治後期に「八事遊園地」などの施設ができて遊興地として開発された地です。八事へ通じる飯田街道には馬車鉄道(ばしゃてつどう)が走るようになります。しかし次に馬車から鉄道に変わろうとする時、この集落あたりの道幅が狭く町屋が立て込んでいたため十分な拡幅ができず、結局は街道の北側に並行する形で新たに鉄道の軌道が開削されました。

現在も川原神社には池があり、絵と似た灯籠と石垣で囲われています。池には弁財天が祀られ、神社は地域の人々から「川名の弁天さま」と呼ばれています。鉄道が走らなかった代わりに、今も昔も変わらず人々に親しまれる神社の姿を見ることができます。



川原神社の池を囲む灯籠と石垣。



現在の飯田街道の様子。
古い町屋建築もいくつか見られる。



明治期(左)と平成期(右)の川名集落の地図。左上から右下に湾曲して通っているのが飯田街道。明治期の地図を見ると、街道沿線に建物が立て込んでいたことが分かる。
(「まちづくり情報システム(ISM)」画面より)

(参考文献)※()内はまちづくりライブラリーの請求番号です。

- 『愛知県歴史の道調査報告書Ⅷ』愛知県教育委員会文化財課／編(Se-7)
- 『尾張名所図会絵解き散歩』前田栄作／著(Sc-7)
- 『古地図で楽しむなごや今昔』溝口常俊／編著(Sc-3)
- 『新修名古屋市史 第4巻』新修名古屋市史編集委員会／編(Sc-7)
- 『昭和区の歴史』名古屋国際高等学校社会科／編(Sc-7)
- 『なごやの古道・街道を歩く』池田誠一／著(Se-1)

公益財団法人 名古屋まちづくり公社

名古屋都市センター
Nagoya Urban Institute

〒460-0023
名古屋市中区金山町一丁目1番1号 金山南ビル
TEL 052-678-2208
FAX 052-678-2209
<http://www.nup.or.jp/nui/>



利用案内◎どなたでもご利用いただけます。

【11階】まちづくり広場
(展示スペース・ホール・喫茶コーナー)
火～金曜日: 10:00～18:00
土・日曜日・祝休日: 10:00～17:00

【12階】まちづくりライブラリー
火～木曜日: 10:00～18:00
金曜日: 10:00～20:00
土・日曜日・祝休日: 10:00～17:00

【休館日】
月曜日(祝休日の場合はその翌日)・年末年始
(まちづくりライブラリーは、上記のほか第4木曜日、特別整理期間も休館)

